

優秀な建設技能者 566 人を表彰 国交省、「建設マスター」等決定 ～最高峰「マスター」に 446 人、若手「ジュニア」に 120 人

国土交通省は 7 日、建設産業の第一線で優秀な技術・技能を発揮し、後進の指導・育成などに多大な貢献をした建設技能者を表彰する令和 8 年度の被顕彰者を発表した。今年度は「優秀施工者国土交通大臣顕彰（建設マスター）」に 446 人、「青年優秀施工者不動産・建設経済局長顕彰（建設ジュニアマスター）」に 120 人の計 566 人が選ばれた。顕彰式典は 10 月 14 日、東京都文京区の文京シビックホールで開催される。

建設マスターは、現場でものづくりに直接従事する技能者の社会的地位向上や誇りの醸成を目的に平成 4 年度から実施されているもので、今回で 35 回目を迎える。一方、建設ジュニアマスターは、若手技能者の技能向上へのインセンティブや次世代の担い手確保を目的に平成 27 年度に創設され、今回が 12 回目となる。両顕彰を合わせた累計被顕彰者数は、建設マスターが 1 万 3 762 人、建設ジュニアマスターが 1 342 人に達した。

九州地区の「建設マスター」は「福岡県」23 人、「佐賀県」7 人、「長崎県」4 人、「熊本県」4 人、「大分県」5 人、「宮崎県」10 人、「鹿児島県」9 人、「沖縄県」3 人。「建設ジュニアマスター」は「福岡県」5 人、「長崎県」1 人、「熊本県」2 人、「大分県」1 人、「宮崎県」1 人、「鹿児島県」1 人、「沖縄県」1 人となっている。

今回の建設マスター被顕彰者には（446 人）の平均年齢は 52.7 歳。主な職種は建設機械運転工（56 人）、土工（54 人）、大工（29 人）、とび工（29 人）など多岐にわたる。また、将来の活躍が期待される若手を対象とした建設ジュニアマスター（120 人）の平均年齢は 35.5 歳で、大工（14 人）、鉄筋工（10 人）、電気工（9 人）などが中心となった。女性技能者も建設マスターで建設機械運転工 1 人、建設ジュニアマスターで電気工 1 人がそれぞれ選出されている。

建設産業は社会資本整備の担い手であると同時に、災害対応を最前線で支える「地域の守り手」として不可欠な役割を担っている。国交省は本顕彰を通じて、優れた技能の継承と若手入職者の確保・育成を後押ししていく構えだ。

建設マスター・建設ジュニアマスター被顕彰者